

# たす て ふさわしい助け手

そうせいき  
創世記2：18～25



1. 正しい方を○で囲んでね。

「人が、( 遊<sup>あそ</sup>ん ・ ひとり ) ているのは ( あぶ ・ 良<sup>よ</sup>く ) ない。  
わたしは彼の<sup>かれ</sup>のために、ふさわしい ( 猫<sup>ねこ</sup>の ・ たす て ) 手<sup>て</sup>をつくらう。」

2. 神さまは、男<sup>おとこ</sup>の人の助け手<sup>ひと たす て み</sup>を見つけるために、すべての動物<sup>どうぶつ</sup>に名前<sup>なまえ</sup>をつけさせました。それはどうしてですか？

名前<sup>なまえ</sup>をつけた動物<sup>どうぶつ</sup>の中に、ふさわしい助け手はいましたか？

3. 聖書<sup>せいしょ</sup>に書いてあるとおりに、( ) の中<sup>なか</sup>にことば<sup>い</sup>を入れてね。

そこで ( ) である主<sup>しゅ</sup>が、深い ( ) をその人<sup>ひと</sup>に下<sup>くだ</sup>されたので、彼は ( ) 。それで、彼の ( ) の一つを取り、そのところの ( ) をふさがれた。こうして神である主<sup>しゅ</sup>は、人<sup>ひと</sup>から取<sup>と</sup>った ( ) を、ひとりの ( ) に造<sup>つく</sup>り上げ、その ( ) を人<sup>ひと</sup>のところに連<sup>つ</sup>れて来<sup>こ</sup>られた。

4. 正しいものに○をしてね (いくつでも)。

- ( ) 男<sup>おとこ</sup>の方が先<sup>ほう</sup>に造<sup>さ</sup>られたので、男<sup>おとこ</sup>の人<sup>ひと</sup>はいつもいばって良い
- ( ) 神<sup>かみ</sup>さまの目<sup>め</sup>には男<sup>おとこ</sup>も女<sup>おんな</sup>も同<sup>おな</sup>じように大<sup>たい</sup>切<sup>せつ</sup>だけど、それぞれちがう役<sup>やく</sup>割<sup>わり</sup>がある
- ( ) 人<sup>ひと</sup>間は自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>勝<sup>か</sup>つて生<sup>い</sup>きるよりも、神<sup>かみ</sup>さまに造<sup>さ</sup>られた役<sup>やく</sup>割<sup>わり</sup>のとおり<sup>い</sup>に生<sup>い</sup>きる方<sup>ほう</sup>が幸<sup>しあ</sup>せになれる
- ( ) 結<sup>け</sup>婚<sup>こん</sup>のし<sup>し</sup>く<sup>く</sup>みは、神<sup>かみ</sup>さまが造<sup>さ</sup>った